学校番号	３１８

令和８年度　芸術科［書道］

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅱ　（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・用具用材準備物をきちんと整えて授業に望むのが基本です。用具用材を生かして作品の製作に取り組みましょう。
・身の回りの書作品にも進んで目を向け作品制作に応用できるようにしましょう。
・刻字など創作の分野が広がります集中して主体的に学習することが大切です。

2　学習の到達目標

（ａ）書写能力の向上及び書の表現方法や多様性についての知識と基礎的な技能を習得する。
（ｂ）表現と鑑賞の能力の向上及び書の伝統と文化について理解し、書の美を味わうことができる。
（ｃ）主体的な活動を通して書に親しみ、理解と感性を高め、生涯にわたり書を愛好する心情を育む文化的で心豊かな生活や社会を創造する人間としての態度と、個々の自己表現力や生きる力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味・価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	漢字の書(1)	・主に篆書と隷書の学習 ・画仙紙の作品制作	a: 書体の特徴や用筆法について理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につける。 b: 書体の特徴や用筆法を習得し、創意工夫しながら形式に応じて表現している。 c: 篆書・隷書の特徴や用筆法に関心を持ち作品制作に主体的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察
	漢字仮名交じりの書	・文学作品などを扱い、紙面構成や用筆を工夫した作品制作 ・生活の中の書(団扇硬筆)	a: 漢字仮名交じりの用筆、字形などの知識を生かし、意図に基づき表現できる技能を身につける。 b: 紙面構成や用筆を工夫しながら目的や形式、意図に応じて効果的な表現をしている。 c: 漢字と仮名の調和や日本文化に関心を持ち作品制作に主体的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察
2学期	漢字の書(2)	・主に草書の学習 ・画仙紙の作品制作 ・古典(真草千字文)の書	a: 書体の特徴や用筆法について理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につける。 b: 書体の特徴や用筆法を習得し、創意工夫しながら形式に応じて表現している。 c: 草書の特徴や用筆法に関心を持ち作品制作に主体的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察
	刻字・漢字の書(3)	・セラミックボードの作品制作 ・画仙紙の作品制作(書体の学習のまとめ)	a: 書体の特徴や用筆法について理解し、効果的に表現するための技能を身につける。 b: 目的や形式、意図に応じて創意工夫しながら表現している。 c: 用具用材の効用、文字の美に関心を持ち、主体的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察

3学期	生活に生かす書	・小筆書きによる葉書大の作品制作 ・姓または名を板に刻み、表札作品の制作	a: 用具・用材、用筆法について理解し、伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身につける。 b: 用具用材の特徴や機能を生かして自分の意図を表現している。 c: 手書きの効用や日本の文化に関心を持ち、主体的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度